

《2016 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2015 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

委員 青木 みちる（学習院大学）

秋場 理世（白百合女子大学）

佐藤 友治（文化学園大学）

吉田 真希子（慶應義塾大学）

金沢 美都子（早稲田大学）（任期 2016 年 4 月 1 日～2016 年 11 月 30 日）

鈴木 努（早稲田大学）（任期 2016 年 12 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

吉田 千草（明治大学）

新井 和之（成城大学）

齋藤 雅彦（専修大学）

研究部担当理事校 桜美林大学

第 1 回 2016 年 4 月 15 日（金）15：00～17：00 於：桜美林大学

1. 2015 年度研究部決算について
2. 2016/2017 年度研究分科会会員の更新結果について
3. 研究分科会の休会・再開・廃会について
4. 2016 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 特別助成金の申請について
6. 2015 年度研究分科会活動報告について
7. 2015 年度研究分科会会計報告について
8. 2016 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2016 年度部会総会行事について
10. 2016 年度研究部運営委員会日程について
11. 2016 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
12. その他

第 2 回 2016 年 5 月 13 日（金）13：00～14：30 於：桜美林大学

1. 研究分科会の休会・廃会について
2. 2016 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 2016 年度研究分科会活動計画及び予算計画について
4. 特別助成金について
5. 2016 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
6. 研究会（交流会）の開催計画について
7. 研究分科会の運営上の諸問題について
8. その他

第3回 2016年6月10日(金) 12:00~12:30 於:東京理科大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 分科会員異動について
3. その他

第4回 2016年7月8日(金) 15:00~17:00 於:専修大学

1. 2016年度研究会(交流会)について
2. 2016年度研究分科会夏期合宿(集中研究会)実施計画について
3. 研究分科会に対する謝礼の取扱について
4. その他

第5回 2016年10月7日(金) 14:30 ~ 17:00 於:成城大学

1. 2016年度研究会(交流会)について
2. 2016年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 次期研究部運営委員の推薦について
4. 地域研修開催について
5. 研究分科会の会計について(報告)
6. 研究分科会の運営について(報告・協議)
7. その他

第6回 2016年11月11日(金) 11:00~12:15 於:明治大学

1. 2016年度第2回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2016年度研究分科会夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
3. 研究分科会運営上の問題について
4. 2016年度研究会(交流会)の運営について
5. 2016年度研究講演会講師と演題について
6. 研究分科会のトラブル申請について
7. その他

第7回 2016年12月9日(金) 14:00~16:30 於:白百合女子大学

1. 2016年度研究部予算執行状況について
2. 2016年度研究部活動計画(案)について
3. 2016年度研究部予算(案)について
4. 新規研究分科会受付募集について
5. 2017/18年度運営委員について
6. 2017年度研究講演会の講師と演題について
7. 東地区部会研究部細則の改正について
8. 研修委員会規則の改正について
9. その他

第8回 2017年3月10日(金) 14:00～16:30 於:桜美林大学

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2016年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2017年度研究部活動計画(案)及び研究部予算(案)について
4. 研修分科会の募集状況について
5. 研究部担当理事校の引継について
6. 更新担当理事校の引継について
7. 月例会担当理事校の引継について
8. 研究分科会マニュアル2017年度版(案)について
9. 研究分科会の課題について
10. 研修委員会活動について
11. 部会役員会の報告について
12. その他

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第1回 2016年5月13日(金) 15:00～17:00 於:桜美林大学

1. 2016年度研究部活動計画(案)及び予算(案)について
2. 2016年度研究分科会活動計画(案)について
3. 2016年度研究会(交流会)について
4. 研究分科会マニュアル2016年度版について
5. 分科会関連業務分担について
6. 協会ホームページについて
7. 2016年度私立大学図書館協会スケジュールについて
8. 運営上の諸問題について
9. その他

第2回 2016年11月11日(金) 12:30～13:40 於:明治大学

1. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
2. 2016年度研究会(交流会)について
3. 研究部報告書原稿・会計報告書の提出について
4. 次期運営委員について
5. マニュアルの改定について
6. 今後の研究部の活動について(懇談)
7. その他

3. 研究会

2016年度研究会（交流会）

日 時：2016年11月11日（金）14:30～17:30

場 所：明治大学中央図書館B1F多目的ホール

参加数：36大学 46名

演 題：就活と読書の関連性

講師 大学ジャーナリスト・ライター 石渡 嶺司

研究分科会活動中間報告：

5研究分科会、研修分科会 各10分

- ①分類研究分科会
- ②西洋古版本研究分科会
- ③和漢古典籍研究分科会
- ④パブリック・サービス研究分科会
- ⑤レファレンス研究分科会
- ⑥研修分科会

4. 研修委員会

研修委員（任期2016年4月1日～2018年3月31日）

委員長 渡邊 幸弘 （早稲田大学）

委 員 長野 裕恵 （慶應義塾大学）

永井 夏紀 （中央大学）

飯塚 貴子 （明治大学）

森 浩生 （玉川大学）

糸数 ハシ美香（桜美林大学）（任期2016年4月1日～2017年3月31日）

オブザーバー 伊能 秀明（明治大学）

第1回 2016年4月26日（火）14:30～16:30 於：早稲田大学

1. 研修会隔年開催について
2. 研修会テーマ（案）について
3. その他

第2回 2016年5月30日（月）14:30～16:30 於：桜美林大学

1. 地域研修について
2. その他

第3回 2016年6月21日（水）14:30～16:30 於：中央大学

1. 地域研修について

2. その他

第4回 2016年7月19日(火) 14:30～16:30 於：慶応義塾大学

1. 地域研修について
2. その他

第5回 2016年9月20日(火) 14:30～16:30 於：玉川大学

1. 地域研修について
2. その他

第6回 2016年11月22日(火) 14:30～16:30 於：明治大学

1. 地域研修について(報告)
2. その他

第7回 2016年12月20日(火) 14:00～16:30 於：早稲田大学

1. 2017年度研修会会場について
2. 2017年度研修会テーマについて
3. その他

第8回 2017年3月21日(月) 14:30～16:30 於：桜美林大学

1. 2016年度研修委員会及び事務局交代について(自己紹介)
2. 2016年度第8回運営委員会における報告事項について
3. 2017年度研修委員会の運営体制について
4. 2017年度研修会について
5. その他

5. 研修会(地域研修)

開催日：2016年10月21日(金) 10:00～17:00

場 所：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

参加者：21大学 24名

内 容：

講 演 「教育・学修支援における図書館員の役割—実践課題と必要な能力
開発を考える」

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長 井上 真琴氏

ワークショップ：グループワーク～グループ討議～全体討議

NPO 法人大学図書館支援機構 米澤 誠氏、高野 真理子氏

6. 研究分科会

次の5研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2016年4月1日～2017年3月31日)

- (1) 分類研究分科会
- (2) 西洋古版本研究分科会
- (3) 和漢古典籍研究分科会
- (4) パブリック・サービス研究分科会
- (5) レファレンス研究分科会

休会：企画広報研究分科会

研究分科会月例担当理事校 白百合女子大学

研究分科会更新担当理事校 文化学園大学

7. 研修分科会

- 第1回 6月2日 (木) 於：図書館流通センター本社
- 第2回 7月7日 (木) 於：明治学院大学
- 第3回 8月31日 (水) 夏期図書館見学ツアー 大宅壮一文庫～日本近代文学館～
国立教育政策研究所図書館)
- 第4回 10月6日 (木) 於：國學院大學
- 第5回 11月19日 (木) 於：図書館流通センター本社
- 第6回 12月10日 (木) 於：共立女子大学

分類研究分科会

代表者：鈴木 学(日本女子大学)

会員数：4名

会 員：奥井 翔太(文化学園大学・正会員) 鈴木 学(日本女子大学・正会員)
高澤 玲子(獨協大学・正会員) 荒井 邦子(東京慈恵会医科大学・(正)MLネット会員)
村上 明子(桐蔭横浜大学・(正)MLネット会員, 2016年11月11日付退会)
※正会員3名, (正)MLネット会員1名

年会費：なし

例会開催回数：11回(内訳：月例会10回, 夏期集中研究会)

延べ参加者数：45名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/bunrui/>

活動

(1)基本テーマ

研究テーマ「分類法における主題のとらえ方：ツールとしての活用について」

NDC10版が2014年に刊行された。今期は、NDC10版を批評しながら、図書館のツールとして図書館分類法を検証する。

(2)活動の概要

会期1年目では、まずは次の2点について整えることを目標とした。その後に研究テーマに取り組んでいくこととした。

- ・分科会活動を円滑に進めていくための会員コミュニティの基盤作り
- ・研究テーマに関する知識的基盤をそろえる

なお、会員同士の連絡やファイル交換等情報共有の基盤としてグループウェア「サイボウズLive」を利用することとした。

○4月～8月

この時期の活動内容は、会員コミュニティの基盤を整えることと研究テーマの共有が中心となる。まずは会員同士の顔合わせと役割分担をおこない、2年間の活動期間中の大まかなスケジュールの確認をした。さらに、分科会活動における「サイボウズLive」の運用方法についての確認をおこなった。

研究テーマについての課題内容の共有と具体的な課題設定、各会員の研究テーマに関する基礎レベルの調整、夏期集中研究会の開催について例会の議題として検討をすすめる、関連するテキストを課題文献として精読をおこなった。この期間の課題図書は以下の通り。

- ・「情報貧国ニッポン：課題と提言」(図書館サポートフォーラムシリーズ)

山崎久道著. 日外アソシエーツ, 紀伊國屋書店 (発売), 2015.5

○夏期集中研究会

8月に夏期集中研究会を開催することにした。これまで分類研究分科会では夏期研究合宿を開催しコミュニティの強化につとめてきたが、今期は開催できず宿泊を伴わない集中研究会の形式を取ることとなった。集中研究会では夏期研究合宿と同様に少数の文献を集中的に精読しながら議論をおこない、研究テーマについての認識を理論的に深めることができた。また旧会員の参加もあり盛況であった。集中研究会の課題資料は以下の通り。

- ・「分類の発想：思考のルールをつくる」中尾佐助著．朝日新聞社，1990.9
(朝日選書，409)
- ・「情報の科学と技術」58巻2号「特集＝ 分類をみつめなおす」[part1]
- ・「情報の科学と技術」66巻6号「特集＝ 分類をみつめなおす」part2

○9月～現在

研究テーマについてより関連の深いテキストの精読をおこないながら，今期の活動テーマの中心であるNDC10版の読解を進めている。合わせて今期の課題への取り組み方についても議題として取り上げている。この期間の課題図書は以下の通り。

- ・「情報の科学と技術」58巻2号「特集＝ 分類をみつめなおす」[part1](継続)
- ・「情報の科学と技術」66巻6号「特集＝ 分類をみつめなおす」part2(継続)
- ・「NDCへの招待：図書分類の技術と実践」蟹瀬智弘著．樹村房，2015.5
- ・「日本十進分類法」新訂10版，1(本表・補助表編)，2(相関索引・使用法編)．
もりきよし原編．日本図書館協会分類委員会改訂．日本図書館協会 2014

○例会

今年度は会期が改まり新たな会員での活動が始まった。定例会として月例会を開催し10回開催することができた(2016年8月は休会とし夏期集中研究会を開催，2017年2月は休会)。また，3日間の予定で夏期集中研究会を計画したが，天候不良により，2日間の開催となった。取り組む時間をとれなかった課題はその後の月例会の議題とした。

例会会場については，会員4名で持ち回りとしたが(計12会場：月例会10回+夏期集中研究会2日分)，なるべく同じ回数となるように分担した。

○TP&Dフォーラム2016(第26回整理技術・情報管理等研究集会)の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ(現・情報組織化研究グループ)により始められたTP&Dフォーラムは，第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2016年度は横浜で開催。分科会からは鈴木が実行委員長として，高澤，荒井が参加者として出席した。

フォーラムの参加者は教員，図書館員，図書館関連業者などさまざまであり，分科会が参加・関与することの利点は(1)主題組織分野における最新の研究動向の把握，(2)分野を同じくする教員や研究者との交流，(3)この分野の研究基盤継承への貢献であるといえる。なお，2017年度は9月に関西で開催される予定である。

資料

(1)例会開催とテーマ [月日・会場・テーマ等]

○月例会開催について(2016年度：2016年4月～2017年3月)

開催日(曜日) 時間	会場(キャンパス名等)と議題
4月22日(金) 13:00～17:00	文教大学(越谷) 図書館会議室 ・議題：会員自己紹介，前期からの引継，代表・担当等選出
5月20日(金) 13:00～17:00	獨協大学 図書館会議室 ・議題：文献精読
6月10日(金) 13:00～17:00	東京慈恵会医科大学(新橋) 学術情報センター標本館 ・議題：文献精読
7月22日(金) 13:00～17:00	日本女子大学(目白) 図書館グループ研究室 ・議題：文献精読

9月30日(金) 13:00～17:00 獨協大学 図書館会議室

・議題：文献精読

10月28日(金) 13:00～17:00 東京慈恵会医科大学(新橋) 学術情報センター標本館

・議題：文献精読, 研究分科会中間報告準備

11月25日(金) 13:00～17:00 日本女子大学(西生田) 会議室

・議題：文献精読

12月16日(金) 13:00～17:00 文化学園大学 会議室

・議題：文献精読

1月27日(金) 13:00～17:00 獨協大学 図書館会議室

・議題：文献精読

3月17日(金) 13:00～17:00 文化学園大学 会議室

・議題：文献精読, 今年度の活動のまとめ

○集中研究会開催について

開催日(曜日) 時間 会場(キャンパス名等)と議題

8月23日(火) 9:00～17:00 東京慈恵会医科大学(国領) 会議室

・議題：文献精読, 図書館見学

8月24日(水) 9:00～17:00 文化学園大学 会議室

・議題：文献精読, 図書館見学, 関連施設見学(ファッションリソースセンター(テキスタイル資料室, 映像資料室, コスチューム資料室), 文化学園服飾博物館)

(2)刊行物及び事業

特になし。

以上

西洋古版本研究分科会

代表者：ティムソン ジョウナス（早稲田大学）

会員数：8名

会 員：阿部伊作（東京基督教大学）

窪田藍（専修大学）

杉山友美（関東学院大学）

寺島久美（鶴見大学）

永井夏紀（中央大学）

宮原柔太郎（日本体育大学）

吉水拓哉（立正大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回

延べ参加者数：73名

研究分科会ホームページURL：http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/

活動

（1）基本テーマ

- ① 西洋古版本に関する書誌作成技術の習得
- ② 図書館で西洋古版本を扱う際に必要な知識の習得(取扱い方法、管理方法など)

（2）活動の概要

西洋古版本に関する文献の講読や多数の識者の講義や指導を受け、基本的な理解を深めるほか、会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いての資料整理・書誌作成の実践にも取り組む。また、前年度に引き続き、西洋古版本の業務にあたっている図書館関係者が、恒常的にノウハウを習得することが可能なウェブサイトの作成に取り組む。

資料

（1）月例会テーマ

4月例会：4月25日(月) 早稲田大学図書館 参加者8名

- ① 新会期開始にあたって、メンバー間での自己紹介、意見交換
- ② 館内見学

5月例会：5月26日(木) 慶應義塾大学名誉教授 高宮研究室 参加者8名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による書誌学基礎講義(書物の構成要素)

6月例会：6月28日(火) 慶應義塾大学名誉教授 高宮研究室 参加者7名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による書誌学基礎講義(特殊な本)

7月例会：7月21日(木) 早稲田大学図書館 参加者7名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による講義(早稲田大学図書館所蔵の貴重書の解説)

夏季集中合宿：9月14日(水)～15日(木) 和紙工房/貴重書修復工房(下記参照) 参加者8名

- ① 小川町和紙体験学習センター (西洋貴重書修復に利用される和紙について体験学習)
- ② アトリエ・ド・クレ (製本修復家岡本幸治先生による修復・保存技術の講習)

10月例会(1)：10月25日(火) 株式会社ネットラーニング本社(新宿区) 参加者6名

- ① 自己啓発・社内研修向けのオンライン学習コンテンツについてヒアリング

10月例会(2)：10月26日(金) 神保町古書店街 参加者6名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による講義(神保町の各稀覯書専門古書店にて講義)

12月例会(1)：12月7日(水) 専修大学図書館 参加者6名

- ① 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による講義(専修大学図書館所蔵の貴重書解説：古刊本)
- ② 慶應義塾大学名誉教授高宮先生による講義(専修大学図書館所蔵の貴重書解説：写本)

12月例会(2)：12月19日(月) 鶴見大学図書館 参加者6名

- ③ 元・跡見学園女子大学教授高野彰先生による講義(記述書誌)

1月例会：1月18日(月) 専修大学図書館 参加者4名

- ① 元・跡見学園女子大学教授高野彰先生による講義(記述書誌)

3月例会：3月14日(火) 立正大学図書館 参加者5名

- ① 元・跡見学園女子大学教授高野彰先生による講義(記述書誌)
- ② 事務連絡(4月例会、2017年度活動計画)

(2) 刊行物及び事業

特になし

和漢古典籍研究分科会

代表者：松下 賢（駒澤大学）

会員数：6名、講師1名（2017/3/17現在）

会 員：松下 賢（駒澤大学） 高島 みなみ（成城大学）
八木 彩香（中央大学） 堀 はな恵（鶴見大学）
小此木 敏明（立正大学） 藤 順一（早稲田大学）
高橋 良政講師（元日本大学）
小川 佳菜子（日本体育大学）※夏期集中研究会をもって退会

年会費：0円

例会開催回数：10回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：95名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/>

活動

（1）基本テーマ

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法を習得することを目指している。会員所属図書館蔵の和漢古典籍を使って、情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質や字様・分類についての考証、刊印修の分別などとともに、書誌事項の適切な表記の仕方までを演習形式で学ぶ。

（2）活動の概要

- ・ 古典籍資料の知識を習得するため、下記資料を使用し担当箇所の発表（輪読）を行なった。発表にあたっては、適宜質疑や補足を講師よりいただいた。
資料：堀川貴司 2010『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版
- ・ 会場校が所蔵する古典籍資料について、講師の指導を受けながら調書を作成した。
- ・ 海外（アメリカ）における古典籍資料への取り組み、所蔵資料の利活用についての講演を聴講、版木摺り作業の見学を行なった。

資料

（1）月例会テーマ

第1回月例会

日 程：2016年4月28日（木）

会 場：立正大学古書資料館

参加者：8名

- ・ 会員自己紹介、分科会概要の説明、活動方針決定
- ・ 輪読資料選択
- ・ 役員選出及び月例会日程の設定
- ・ 調書の用語説明（高橋講師より）

第2回月例会

日 程：2016年5月20日(金)

場 所：成城大学図書館

参加者：8名

- ・ 代表者会議報告
- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp.13-23 発表
- ・ 調書作成

第3回月例会

日 程：2016年6月24日(金)

場 所：早稲田大学中央図書館

参加者：8名

- ・ 夏期集中研究会について
- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp.24-38 発表
- ・ 調書作成
- ・ 早稲田大学中央図書館見学

第4回月例会

日 程：2016年7月22日(金)

場 所：鶴見大学図書館

参加者：8名

- ・ 夏期集中研究会について
- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp.39-61 発表
- ・ 調書作成
- ・ 鶴見大学図書館見学

夏期集中研究会

日 程：2016年8月23日(火)

場 所：成城大学図書館

参加者：8名

- ・ 事務連絡、役務変更等
- ・ 調書作成

日 程：2016年8月24日(水)

場 所：早稲田大学図書館・東洋文庫

参加者：24名（非会員参加13名、講師3名含む）

- ・ 講演「日本古典籍資料をめぐる北米の取組みとカリフォルニア大学バークレー校の事例紹介」マルラ・俊江氏（所属：カリフォルニア大学バークレー校）
- ・ 講演「書籍・歴史資料の展示における試みー図書展示コンサルティングー」篠木由喜氏、岡崎礼奈氏（所属：東洋文庫展示普及部）
- ・ 東洋文庫見学

第5回月例会

日 程：2016年10月21日(金)

場 所：中央大学中央図書館

参加者：6名

- ・ 研究テーマについて

- ・ 中間報告会に向けて
- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp. 62-78 発表
- ・ 調書作成

第6回月例会

日 程：2016年11月25日(金)

場 所：駒澤大学図書館

参加者：7名

- ・ 代表者会議、中間報告会報告
- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp. 79-85 発表
- ・ 調書作成
- ・ 駒澤大学図書館見学

第7回月例会

日 程：2016年12月7日(水)

場 所：駒澤大学図書館・禅文化歴史博物館

参加者：6名

- ・ 版木摺り作業見学
- ・ 禅文化歴史博物館見学
- ・ 研究テーマ検討

第8回月例会

日 程：2017年1月20日(金)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：6名

- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp. 86-102 発表
- ・ 研究テーマ検討
- ・ 調書作成

第9回月例会

日 程：2017年3月17日(金)

場 所：成城大学図書館

参加者：6名

- ・ 輪読資料『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』pp. 103-115 発表
- ・ 研究テーマ検討
- ・ 成城大学図書館見学

(2) 刊行物及び事業

なし

パブリック・サービス研究分科会

代表者：常盤 哲平（文教大学）

会員数：3校3名

会 員：常盤 哲平（文教大学）

太田 潤（明星大学）

山本 美智恵（日本体育大学）

年会費：0円（正会員）

例会開催回数：10回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：31人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/public/>

活動

1) 基本テーマ

近年大学図書館において活発になっている学生協働について、図書館のマネジメント体制を研究テーマとする。

2) 活動の概要

5月～7月の月例会および夏期研究合宿にて意見交換を行い、今期テーマを学生協働のマネジメントと学習支援に決定した。年々学生協働に取り組む大学が増え事例報告もされているが、実施の意思がありながらも取り組めていない大学や、実施中であっても継続していくことに課題を抱えている大学も多く、その理由として、予算や人材がネックになっていることが予想される。そこで、平成28年4月以降に「学生協働のマネジメントの実態について」のアンケート調査を実施することとし、10月から12月かけて質問項目を検討し、2月から3月に模擬調査を実施した。なお、11月にはお茶の水女子大学図書館を訪問し学生協働についてのインタビューを行い、3月には立教大学にて開催された学生協働ワークショップ in 東京 2016に見学参加をした。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会：4月22日（金）13:00～17:00（明星大学）

- ① 担当係りの選定、引継ぎ
- ② 予算確認
- ③ 東京学芸大学図書館見学

5月例会：5月11日（水）13:00～17:00（日本体育大学）

- ① 2016年度の活動・研究テーマの検討

6月例会：6月17日（金）14:00～17:00（文教大学）

- ① これからの大学図書館と専任職員のあり方について（講師：文教大学越谷図書館 鈴木正紀氏）

② 2016年度の活動・研究テーマの検討

7月例会：7月21日（木）13:00～17:00（芝浦工業大学）

- ① 2016年度の活動・研究テーマの検討
- ② 夏期研究合宿について

夏期研究合宿：9月7日（水）～9日（金）（相洋閣 神奈川県葉山町）

- ① 「学生協働と学習支援」をテーマとして、会員の個人発表と質疑応答
- ② 大学図書館員の意識改革について（講師：愛知大学 加藤好郎教授）

10月例会：10月28日（金）13:00～17:00（文教大学）

- ① 中間報告会の準備
- ② インタビュー内容の検討

11月例会：11月21日（月）13:00～17:00（お茶の水女子大学）

- ① 学生協働についてのインタビュー（対象：お茶の水女子大学図書館 森いづみ氏）

12月例会：12月9日（金）13:00～17:00（日本体育大学）

- ① アンケート調査の質問項目検討

2月例会：2月24日（金）13:00～17:00（明星大学）

- ① アンケート模擬調査内容の確認および質問項目の修正

3月例会：3月1日（水）13:00～17:00（立教大学）

- ① 学生協働ワークショップ in 東京 2016 見学参加

2) 刊行物及び事業

特になし。

レファレンス研究分科会

代表者：長谷川 敦史（早稲田大学）

会員数：4名（4月）→3名（5月～，図書館外異動により1名退会）

会 員：鈴木 学（日本女子大学），根本 杏奈（立教大学），長谷川 敦史（早稲田大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（内訳：月例会10回，夏期集中研究会）

延べ参加者数：33名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

活動

（1）基本テーマ

「日本の大学図書館において、レファレンスサービスの提供方法はどのように変化しているのか」

日米の大学図書館では、レファレンスサービスの利用件数の推移は緩やかな減少傾向にある。また、カウンター業務委託の進展、学生アシスタントによる学習相談、電子メールやチャットなどのインターネット環境の利用など、レファレンスサービス受付・提供方法は多様化している。さらに、各大学においてラーニング commons の設置が進展し、レファレンスカウンター以外における人的サポートも急速に増加している。

今期のレファレンス研究分科会では、これらの状況を鑑み、「レファレンスサービスの提供方法の変化」に着目し、これを研究の基本テーマに掲げた。

（2）活動の概要

前期（2014年度／2015年度）のメンバーに加え、新たに1名のメンバーを加えた4名で発足した。会員コミュニティの連絡等情報流通の基盤には「サイボウズ Live」という知識共有ツールを使用した。また、ファイル共有については「BOX」というファイル共有ツールを使用した。7月までの月例会では、2014年度／2015年度レファレンス研究分科会の活動内容を確認し、そのうえで文献や統計数値によってレファレンスサービスの概念、理論、現状などの知識を共有した。

夏期集中研究会ではこれらの結果を受け、「日本の大学図書館において、レファレンスサービスの提供方法はどのように変化しているのか」を把握するための質問紙調査を実施することを決定した。そのうえで、「研究分科会マニュアル 15 アンケート調査」を参照し、質問紙調査の実施方法を具体的に検討した。その後、ブレインストーミングによって質問項目を洗い出し、集約と検討した結果、質問の目的を以下の2つに絞り込んだ

①レファレンスカウンター以外の相談デスクの設置について

②オンラインによるレファレンスサービスの提供について

9月以降の月例会では、先行研究調査を行いながら質問紙の設計を行った。調査実施方法には「Google フォーム」を利用することとし、設定した2つの質問の目的に沿って、質問項目を検討していった。2月に質問項目と質問紙案を確定させた。そのうえで、各自の知人を通じて予備調査を依頼し、10館の大学図書館から回答を得た。この結果を受けて質問紙を修正した。

資料

(1) 月例会テーマ

開催日	テーマ	会場
4/26 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・会員同士の顔合わせと役割分担 ・会員コミュニティの基盤整備 ・スケジュールの設定 	アカデミー音羽(文京区生涯学習施設) 学習室A
5/26 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・前期(2014年度/2015年度)レファレンス研究分科会活動内容の確認 ・文献抄読: ①竹之内禎『情報サービス論』(学文社, 2013), ②長澤雅男『レファレンスサービス』(丸善, 1995) ・統計の確認: ①文部科学省『学術情報基盤実態調査』「参考調査」の推移, ②国立国会図書館『日本の図書館におけるレファレンスサービスの課題と展望』(2013) 	早稲田大学国際会議場 共同研究室 1
6/15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期集中研究会の開催を決定 ・文献精読: 斎藤泰則『利用者志向のレファレンスサービス』(勉誠出版, 2009) 	文京福祉センター江戸川橋地域活動室 A
7/13 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期集中研究会実施要領決定 ・文献精読: 斎藤泰則『利用者志向のレファレンスサービス』(勉誠出版, 2009) 	早稲田大学中央図書館 会議室
8/30 (火)	夏期集中研究会	①日本女子大学目白キャンパス ②立教大学新座キャンパス ③早稲田大学早稲田キャンパス
8/31 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・文献精読: 斎藤泰則『利用者志向のレファレンスサービス』(勉誠出版, 2009) 	
9/1 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の決定 ・質問紙調査項目の検討 ・図書館見学(日本女子大学図書館, 立教大学新座図書館・新座保存書庫, 早稲田大学中央図書館) 	
9/28 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究調査 ・調査実施方法の検討 ・質問紙調査項目の検討 	立教大学池袋図書館 事務室
10/25 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査項目の検討 ・2016年度研究会における中間発表の内容確認 	日本女子大学西生田キャンパス 九十年館A棟 第2会議室
11/16 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査項目の検討 	早稲田大学国際会議場 共同研究室 2
12/14 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査項目の検討 ・図書館見学(大正大学附属図書館) 	大正大学 7号館 2階
※1月は会員の都合により休会		
2/15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙案の確定 ・予備調査の検討 	早稲田大学国際会議場 共同研究室 2
3/15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・予備調査を受けた質問紙の修正 ・本調査実施スケジュールの確定 ・図書館見学(東京学芸大学附属図書館) 	東京学芸大学附属図書館 グローバルコモンズ

(2) 刊行物及び事業
特になし。

以上

研修分科会

代表者：佐々木 俊介（研究部担当理事校：桜美林大学）

会員数：21名

会 員：相澤 真紀（法政大学）	戸田 大悟（駒澤大学）
稲垣 麻央（大正大学）	野口 尚美（東京都市大学）
宇佐美 奈央（和光大学）	深民 貴博（明治学院大学）
岡本 さやか（国立音楽大学）	町田 洋子（学習院大学）
粕川 悠介（成城大学）	松本 茂正（東京薬科大学）
今 由似（大正大学）	的場 ますみ（城西大学）
柴原 美智子（國學院大學）	宮下 夏美（法政大学）
鈴木 俊也（獨協医科大学）	村井 宏子（創価大学）
武井 創一郎（女子美術大学）	小國 美由紀（共立女子大学）
田中 久美子（フェリス女子大学）	横山 千尋（横浜商科大学）
田中 千景（専修大学）	

年会費：3,000円

開催回数：6回

延べ参加者数：112名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/>

活動

1) 基本テーマ

専任の大学図書館職員に求められる基礎知識を学び、自ら探求する。

テーマは①マネージメント力 ②図書館のパフォーマンス向上。

アウトソーシング化が進み、図書館職員として現状を多角的に分析し、評価し、実現する能力が必要とされてきている。大学図書館の機能を根源から捉え、委託外注や電子化、学術情報流通、利用者サービス等について、広い視点で大学図書館の将来を考える。

2) 活動の概要

研修はNPO法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

資料

1) 月例会テーマ

第1回 2016年6月2日（木） 図書館流通センター（TRC）本社

課 題： 大学教育の中での大学図書館の役割を考える

講 演： 図書館と大学教育の連携：お茶大の事例を中心に

演 習： （お茶の水女子大学附属図書館：森 いづみ 氏）

グループ討議・発表

見 学： TRC本社

第2回 2016年7月7日(木) 明治学院大学白金キャンパス

課題: 機関リポジトリを知る

講演: 「機関リポジトリを知る」

(東京歯科大学図書館/阿部 潤也 氏)

演習: グループ討議・発表

見学: 明治学院大学図書館

第3回 2016年8月31日(水) 夏季見学ツアー

テーマ: 「本は読むものではなく、引くものだよ」

見学先: 大宅壮一文庫～日本近代文学館～国立教育政策研究所図書館

第4回 2016年10月6日(木) 國學院大學

課題: とことん広報を考える

講演: 図書館のブランド構築とパブリック・リレーションズ

(広告制作ディレクター・コピーライター 渡邊 崇 氏)

演習: 課題発表と全体討議

見学: 國學院大學図書館

第5回 2016年11月17日(木) 図書館流通センター (TRC) 本社

課題: レファレンスによる現場力アップ

講演: レファレンスと学修支援

(元近畿大学図書館: IAAL 寺尾 隆 氏)

演習: レファレンス演習(事前課題の分析・検討、レファレンス事例演習)

協同制作: グループ討議(テーマ「レファレンス、学修支援を活性化するには」)

見学: なし

第6回 2016年12月8日(木) 共立女子大学

課題: 大学図書館間の共同を進めるには

講演: 国公立大学図書館と国立情報学研究所の連携事業

(JUSTICE 事務局: 矢野 恵子 氏)

協同制作: グループ討議

見学: 共立女子大学図書館

2016年度研究会(交流会)

2016年11月11日(金) 明治大学中央図書館 B1 多目的ホール

報告者: 東京薬科大学 松本 茂正

明治学院大学図書館 深民 貴博

2) 刊行物及び事業

「図書館を楽しむ31の方法」(PDF)

<http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/index.html>

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	分類 研究分科会	西洋古版本 研究分科会	和漢古典籍 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	レファレンス 研究分科会	
書名 又は 誌名	なし	なし	なし	なし	なし	
刊行 頻度						
価格						
発行 部数						
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫						
発行 目的 ・ 主な 内容						
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定						

《2016 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 桜美林大学図書館

【2015 年度 4 月から担当】

月例会担当理事校 白百合女子大学図書館

【2015 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況(2017 年 3 月 1 日現予定含)

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類 研究分科会	10	8 月 23 日～ 8 月 24 日 (集中研究会)
パブリック・サービス 研究分科会	9	9 月 7 日～ 9 月 9 日 (合宿)
西洋古版本 研究分科会	9	9 月 14 日～ 9 月 15 日 (合宿)
和漢古典籍 研究分科会	9	8 月 23 日～ 8 月 24 日 (集中研究会)
レファレンス 研究分科会	10	8 月 30 日～ 9 月 1 日 (集中研究会)

* 夏期合宿・集中研究会内訳（【】は前年度）

夏期合宿 2【1】、集中研究会 3【4】、実施せず 0【1】

2. 2016 年度中の動き

研究分科会の活動期間は 2 年であるため、2016 年度は更新年度に当たる。廃止は 1、休会が 1 となり、2016-17 年度は 5 研究分科会が活動することとなった。

研究分科会の会員異動は退会 3 件であった。各研究分科会の会員数は 3～8 名、月例会は、それぞれ年間 9～10 回開催された。夏期合宿(または集中研究会)は、5 研究分科会の全てが実施した。11 月には交流会が開催され、36 大学 46 名の参加があった。各研究分科会から、2 年間の研究課題についての説明や活動計画等についての発表などがあり、これからの活動に大きな期待を抱く内容であった。

3. 今後の課題

図書館は、時には利用者の求めや大学の意向を反映し業務が変化していくこともあるが、今期活動している研究分科会は、どれもが図書館業務の根本を支えるテーマについて積極的な研究活動を行っている。ただ、前述したように 1 年目で他部署への異動などによる退会があり、依然としてメンバーの確保・固定が大きな課題となっている。今回は新たな試みとして、毎月各研究分科会に広報文の作成を依頼し月例会開催予定表に掲載してみたが、残念ながら効果を上げることは出来なかった。

一方、外部セミナーでの研究分科会の成果発表や図書館総合展への出展などの取り組みが評価され、文部科学省の「大学図書館における先進的な取組の実践例 (Web 版)」に掲載された研究分科会もあった。このような外部への積極的な発信は研究分科会をより広く広報するための有効な手段になるのではないだろうか。

今後は、活動中の研究分科会だけでなく、既に休会・廃会の研究分科会のこれまでの成果をどのように紹介し復活させるか、新たなテーマによる研究分科会の新設をいかにサポートしていくかが課題となっていくであろう。

< 2016/2017年度研修分科会会員の更新結果（報告） >

研究部担当理事校 桜美林大学図書館
分科会更新担当理事校 文化学園大学図書館

1. 更新状況

(2017年3月31日現在)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
研修分科会(単年度更新)	13	12	10	9	▲3	第一次締め切り分

※研究分科会は、2年ごとの更新のため2017年度の更新はなし（参加人数等は前年度の報告を参照）

2. 会員更新経過

2016年

9月中旬

研修分科会代表者宛「2017年度研修分科会会員募集要項の原稿提出について(依頼)」をEメールにて送信。

12月9日(金)

- ・第7回運営委員会にて、2017年度研修分科会募集について確認を行った（加盟館宛「更新について(お願い)」、募集要項、申込書等）。

2017年

1月23日(月)

- ・研修分科会の会員更新書類として下記書類を加盟大学図書館長宛に送付し、次期会員募集を開始。

- ① 「研修分科会会員の更新について(お願い)」
- ② 「2017年度 研修分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
- ③ 「2017年度 研修分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
- ④ 「2017年度 研修分科会会員募集要項」

※第一次締め切り2月24日(金)、最終締め切り4月7日(金)

2月24日(金)

- ・一次締め切り。9機関10名の応募あり。

2月下旬

- ・研修分科会代表者に、下記書類を郵送。
 - ① 「2016年度研修分科会参加申込書(個人票)」
 - ② 「研修分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」

3月27日(月)

- ・研修分科会代表者より諾否結果を受領。

3月28日(火)

- ・研修分科会参加申込大学図書館長宛に、「2017年度研修分科会参加者中間報告(一次締め切り分)について(通知)」、「2017年度研修分科会参加者一覧(機関別)」を

郵送にて送付。

3. 総括

一次締め切り終了時点で、9機関10名の応募があり、まずまずの状況である。原稿執筆時点で、二次応募も数件受領している。数年前から4月の人事異動を考慮し、最終締め切りを4月はじめにしているので、この後も申し込みは増えると思われ、前年度を上回るのではないかと思う。

研究分科会の更新状況は厳しいものがあるが、研修分科会の方は内容面や単年度開催等の理由で参加しやすいためか人数も集まった。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2016 年度東地区部会研究講演会

日 時：2015 年 6 月 10 日（金） 13：45～16：45（受付開始 13：00）

会 場：東京理科大学葛飾キャンパス図書館 大ホール

参加者：151 大学 285 名

司会者 （研究部運営委員） 早稲田大学 鈴木 努
（研究部運営委員） 白百合女子大学 秋場 理世

1. 開会の辞 13：45～
2. 挨拶 研究部担当理事校 桜美林大学図書館長 清水 竹人
3. 講演 「ツタヤ図書館は大学図書館で実現可能か！？」 14：00～15：00
図書館流通センター 図書館総合研究所 長澤 正樹
- 質疑応答 15：00～15：15
- <休 憩> 15：15～15：30
4. パネルディスカッション
今、あらためて業務委託を徹底解剖！～委託の現状、図書館のホンネ～
コーディネーター 同志社大学図書館司書課程 助教 佐藤 翔
パネリスト 青山学院大学図書館 部長 山田 達二
成蹊大学図書館 事務長 寺西 浩
成城大学図書館 事務長 新井 和之
早稲田大学図書館 事務部長 荘司 雅之
- 質疑応答 16：30～16：45
5. 閉 会

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」148 号に掲載予定

《研究会（交流会）》

2016 年度研究会（交流会）

日 時：2016 年 11 月 11 日（金） 14：30～17：30（受付開始 14：00）

会 場：明治大学中央図書館 多目的ホール

参加者：36 大学 46 名

司会者 （研究部運営委員） 文化学園大学 佐藤 友治

1. 開会の辞 14：30～
2. 挨拶 研究部担当理事校 桜美林大学図書館 佐々木 俊介
3. 講演 「就活と読書の関連性について」 14：40～15：55
大学ジャーナリスト・ライター 石渡 嶺司
4. 休憩 15：55～16：05
5. 研究分科会活動中間報告 16：05～17：30
 - ①分類研究分科会 16：05～16：15
 - ②西洋古版本研究分科会 16：15～16：25
 - ③和漢古典籍研究分科会 16：25～16：35
 - ④パブリック・サービス研究分科会 16：35～16：45
 - ⑤レファレンス研究分科会 16：45～16：55
 - ⑥研修分科会 16：55～17：05
 - 質疑応答 17：05～17：20
6. 閉会の辞 17：30
7. 意見交換会 17：40～19：00
会 場 リバティタワー23 階矢代操ホール
司会者 （研究部運営委員） 成城大学 新井 和之
乾 杯 明治大学図書館長 山泉 進
意見交換
閉会挨拶 桜美林大学図書館メディアセンター課長 佐々木 俊介
閉 会

私立大学図書館協会 東地区部会講演 「就活と読書の関連性」

2016年11月11日
大学ジャーナリスト・石渡嶺司

1. 自己紹介



東洋大学社会学部
※在学中は白山・朝霞
両キャンパス図書館に
入り浸る→

フリーランスのライター → 今、ココ

大学・就活関連の著作26冊



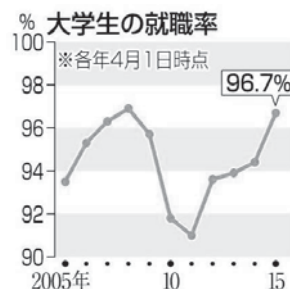
- ・毎日新聞大阪版、Yahoo!、JCASTなどで連載
- ・NHK、テレビ朝日、フジテレビなどに出演



2. 最近の就活事情

日本はどうか？

就職内定率は氷河期でも90%を割っていない！
ここ数年は学生有利の売り手市場が続く！



韓国では…

未曾有の就職難



就職率が悪い

財閥系企業のサムソン、ヒュンダイなどと中小企業の格差が大きい

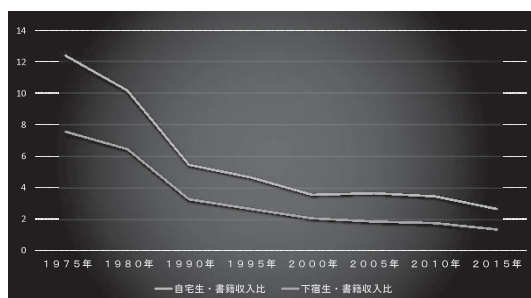
賃金格差が4 : 1

正規雇用と非正規雇用の違いもあり

財閥系企業も業績不振でリストラ相次ぐ

3. 学生の読書離れ

第51回学生生活実態調査
→収入に対する書籍購入比の経年変化



4. 大学図書館ができる就職支援

城西大学図書館

- 就職課による選書・就職コーナーの独立
- 日経テレコン講習会
- 学生アドバイザー・外部講師（岩波書店編集）の講演
- 就職DVDの上演会



シーズン13・第5話「エントリーシート」



御清聴
ありがとうございました！

2016 年度研修委員会活動報告

東地区部会研究部研修委員会
委員長 渡邊 幸弘（早稲田大学）

1. 2016 年度地域研修（図書館員スキルアップコース）

■実施概要

テーマ：「教育・学修支援における図書館員の役割—必要な能力開発を考える—」

日 程：2016 年 10 月 21 日（金） 1 日

会 場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

費 用：受講無料 ※1 日の日程の為、意見交換会は開催せず

募集人員：32 名

■開催趣旨

2016 年 1 月に開催された 2015 年度第 2 回東地区部会役員会において、「地域活性化」および「研修委員会の負担軽減」を柱とした地域研修の開始、および研修会の隔年開催が承認されたことを受け、2016 年度第 1 回研修委員会において、2016 年度は地域研修を行うことが決まった。

研修会は、私立大学図書館協会東地区部会の加盟大学図書館構成員が参加する研修カリキュラムを構築し、私立大学図書館の館員育成および発展に寄与することを目的とするが、例年首都圏近郊で行われており、北海道、東北、北関東、甲信越、東海と広範囲に亘る各地域の加盟校の参加および交流が容易な開催地を選択するよう、首都圏以外の大学を会場として地域研修を開催することとした。

なお、初回となる 2016 年度については、2015 年度中より東地区部会長校および担当理事校で地域研修の会場およびテーマの選定を行い、研修は NPO 法人大学図書館支援機構（IAAL）に業務委託して開催された。

■研修内容

開催日：10 月 21 日（金）

10:25～10:30 開講挨拶

10:30～12:00 講演「教育・学修支援における図書館員の役割—実践課題と必要な能力開発を考える—」

同志社大学教育支援機構学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」 井上 真琴氏

12:00～13:30 懇親ランチ

13:30～13:45 グループワークの方法 1（グループ討議の方法）

東北大学附属図書館事務部長 米澤 誠氏

13:45～14:00 グループワークの方法2 (インストラクショナル・デザイン)

IAAL 副理事長 高野 真理子氏

14:00～15:30 グループ討議

ジグソーメソッドにより、グループ毎に異なる視点から学習 (学修)
支援を企画する

15:30～15:45 休憩

15:45～16:45 全体討議

グループ討議の内容を発表し、他の視点での討議内容のコメントと合
わせて全員が協力して全体像を構成する

16:45～17:00 閉講挨拶・アンケート記入

■参加者数

募集人員：32名 (定員に達しなかったため、参加者の二次募集を行った)

参加人数：22大学 24名

■特記事項

- ①第2回研修委員会より部会長校・担当理事校および地域研修の委託先である IAAL の参加を得て詳細の検討を行った。
- ②初めての地域研修となるため、6月10日(金)に開催された私立大学図書館協会東地区部会総会・館長会・研究講演会において地域研修の事前告知を行った。
- ③地域研修のお知らせは7月1日(金)より全加盟館メーリングリスト宛に行い、同時に申し込みフォームを使用して募集を開始し、7月30日(土)を締め切りとした。
二次募集締め切り：9月9日(金)
- ④地域研修での記録写真撮影およびアンケート内容については、主催者側が作成する報告書等で使用する可能性があることを周知した。

■地域研修の振り返り

研修終了後の第6回研修委員会において、IAAL から「私立大学図書館協会東地区部会地域研修 (2016年度) 実施報告書」(A4判11頁)が提出され受領した。

アンケート結果は良好であり、地域開催の意義を確認するとともに、参加した委員の感想や意見を委員会内で情報共有した。

■地域研修の成果

- ①研修については、「入職後3年目から6年目程度」を念頭に募集したが、結果的にはベテランも混ざり、各班4名で6つのテーマが設定され、それらテーマが問題意識とマッチ

したことによって、活発な議論および意見交換ができたと考える。

- ②また、当初の目的としては、首都圏以外の加盟館が参加しやすい研修であったが、参加者内訳をみると、8割は関東近郊からという結果であった。
- ③次回以降の地域研修の開催についても、IAALへの委託事業として検討する。

2. 研修委員会の構成

2015年度から委員会事務局を務めていた三上委員（桜美林大学）が、業務の都合で4月より糸数委員に交替した。糸数委員の任期は2017年3月末日迄。

委員長 渡邊 幸弘（早稲田大学）
委員 長野 裕恵（慶應義塾大学）
委員 永井 夏紀（中央大学）
委員 飯塚 貴子（明治大学）
委員 森 浩生（玉川大学）
委員 伊能 秀明（明治大学）
事務局 糸数ナンシー美香（桜美林大学）

3. 研修委員会規約改正

2015年度より検討を重ねてきた「私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則」の一部改正について2016年12月に開催された東地区部会研究部運営委員会において審議の上承認され、2017年4月1日より改正されることとなった。

4. 2017年度研修会

地域研修と交互の開催となった研修会については、「実践的クレーム対応ークレームから利用者満足へー」が11月中旬～下旬の2日間の日程により明治大学中央図書館で開催されることが決まった。

以 上

2016年7月1日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
桜美林大学図書館
館長 清水 竹人
【公印省略】

私立大学図書館協会東地区部会
地域研修（図書館員スキルアップコース）のご連絡について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対して、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度2016年度地域研修（図書館員スキルアップコース）を2016年10月21日（金）に開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

本研修は、地域活性化及び新規研修プログラムの一つとして、東北福祉大学様のご協力を賜り仙台で開催いたします。

この研修では、私立大学図書館が現在直面している共通の問題をテーマに取り上げ、解決に向けて参加者が自ら考え、参加者同士のコミュニケーションから学び、業務で実践的に活躍できる能力を養うことを目的としております。

ぜひこの機会に多くの方にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 日 程：2016年10月21日（金）
2. 定 員：30名程度
3. 対 象：私立大学図書館協会東地区部会加盟大学図書館に勤務する専任職員
（入職後3年目から10年目程度） ※ 管理職を除く
4. 会 場：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス 4F 47 教室
（所在地）仙台市宮城野区榴岡 2-5-26
（URL）<http://www.tfu.ac.jp/aboutus/higashiguchicampus.html>
（交通案内）添付資料をご覧ください

※前日までの問い合わせ先：私立大学図書館協会 東地区部会 研究部担当理事校
桜美林大学図書館
(メール) eastlib@obirin.ac.jp

5. 費用：受講無料

※研修に伴う交通費・宿泊費等は、派遣大学でご負担ください。

※昼食は研究部にてご用意いたします。

6. 研修概要

別紙「2016年度地域研修概要」を参照。研修はNPO法人大学図書館支援機構の企画/運営で行い、東地区部会研究部（研究部担当理事校、研修委員会）が運営を管理する。

7. 参加申込

参加ご希望の方は、以下の2016年度地域研修参加申込用URLからお申込みください。この案内書は、各大学の中央図書館にのみ送付しております。分館等へは送付しておりませんので、周知をお願いします。なお、参加申込等は中央図書館(本館)で取りまとめてください。

申込用URL：http://www.jaspul.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=training_2016

【注意事項】

- (1)申込締切：2016年7月30日（土）
- (2)参加申込は、中央図書館（本館）で取りまとめて申込をお願いいたします。申込後、受付完了メールが自動返信されます。
- (3)参加可否は、8月上旬までに申込者全員にご連絡いたします。
- (4)参加できない事情が生じた場合は、速やかに事務局へご連絡ください。
- (5)地域研修での写真、議論・アンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、研究報告、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
- (6)研修中の写真撮影、録音および録画はご遠慮ください。
- (7)ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

【申込方法】

①すべての項目を入力後、「入力内容確認」ボタンを押してください。

2016年度地域研修参加申込フォーム

参加申込は、中央図書館(本館)で取りまとめてご入力をお願いいたします。

学校名 ※必須	<input type="text"/>
学校名・ヨミ(全角カタカナ) ※必須	<input type="text"/>
学校所在地(都道府県) ※必須	<input type="text"/>
ご担当者名 ※必須	<input type="text"/>
TEL 例:012-456-7890 ※必須	<input type="text"/>
ご担当者ご連絡先(E-mail) ※必須	<input type="text"/> (確認)
連絡事項(メモ)	<input type="text"/>

研修申込者 ※1大学(加盟館)1名を優先しますが、複数名の申込も可能です。その場合、入力順が優先順位となります。

優先順位	申込者氏名 例:田中 花子 ※姓、名の間スペースを入れる	申込者氏名(ヨミ) 全角カタカナ 例:タナカ ハナコ ※姓、名の間スペースを入れる	勤続年数(図書館)	担当業務	申込者メールアドレス	申込者メールアドレス (確認用再入力)
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

②入力内容に問題がある場合は、エラー画面が表示されます。画面の指示に従って、再度入力してください。

③ 入力内容に問題がない場合は、確認画面が表示されます。入力内容を確認の上、「送信」ボタンを押してください。

④ 完了画面が表示され、入力したメールアドレスに受付完了メールが届きます。

(メール添付資料一覧)

1. 私立大学図書館協会東地区部会地域研修(図書館員スキルアップコース)のご連絡について(本状)
2. 2016年度地域研修概要
3. 東北福祉大学 アクセスマップ(別紙)

以上

東北福祉大学（仙台駅東口キャンパス）までの交通アクセスマップ



- J R仙台駅 徒歩 3 分
- 地下鉄東西線宮城野通駅 徒歩 3 分

2016年7月1日

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
桜美林大学図書館
研究部研修委員会

私立大学図書館協会東地区部会 2016年度地域研修概要

1. 地域研修の目的

私立大学図書館協会東地区部会に加盟している大学の図書館構成員が参加する研修カリキュラムを構築し、私立大学図書館の館員育成及び発展に寄与することを目的とする。構築にあたっては、北海道、東北、北関東、甲信越・東海の各地域の加盟校の参加が容易な開催地を選択する。なお、今回は第一回目として東北地域での開催とした。

図書館職員数の減少に伴い、図書館員が受講できる研修はこれまで以上に希少な機会になっている。そのため、各研修プログラムには参加することによって得られる「成果」が一層求められている。学習ピラミッドの定着率の指標は、講義(5%)→読書(10%)→視聴覚(20%)→デモンストレーション(30%)→グループ討議(50%)→自ら体験する(75%)→他の人に教える(90%)、といわれており、問題解決型のPBL (Problem Based Learning)を行うことで、実際の業務に役立つ考え方の指標や技術を身につけるという考え方の下に、研修プログラムを企画する。

従ってこの研修では、①私立大学図書館が現在直面している共通の問題を取り上げ、②有識者の講義だけでなく、解決に向けて参加者が自ら考え、参加者同士のコミュニケーションから学び、③業務で実践的に活躍できる能力を養うことを目的とする。単に知識を得るだけでなく、アクティブラーニングや参加者間のコミュニケーション情報交換の場を提供することで、研修終了後のコミュニティ形成に寄与することも、副次的な目的である。

2. 到達目標

研修のテーマについて、問題意識をもって、主体的かつ論理的に考え、理解した内容を自分の言葉で説明し、仲間と交流して、この研修終了後には業務として実践できること。また、専任職員として必要な能力は何かを考え、以降のスキルアップの目標をみいだすこと。

3. 研修内容

＜テーマ：教育・学修支援における図書館員の役割－必要な能力開発を考える－＞

大学が担うべき情報リテラシー教育において、図書館の役割が重要性を増してきている。文部科学省中央教育審議会の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」ⁱでは、求められる取組(イ)として、「その際、TA等の教育サポートスタッフの充実、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、…」といった図書館の学修支援機能の充実が掲げられている。私立大学情報教育協会の「情報リテラシー教育ガイドライン」2013年版ⁱⁱ、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の「高等教育のための情報リテラシー基準」2015年版ⁱⁱⁱなどがすでに出されている中で、どのように学修支援を具体化するかということは、各加盟館共通の問題意識であろう。また、このような大学図書館への期待に対して、求められる職員のスキルは、従来の資料・情報に対する知識だけでなく、高等教育の情報リテラシーの知識や、大学内での円滑な学修支援の運営方法、またアクティブラーニングといった教授法に関する知識等である。このテーマについて体系的に考え方を学び、技術を身につけるトレーニングを受ける機会とする。

初年度はこの「学修支援」をテーマに、講演、グループ討議、発表を行う。併せてコミュニケーションの場を設け、ランチミーティングで自由な情報交換ができる環境を用意する。なお、次回以降も加盟館に共通した問題を取り上げることで、その時節に応じたテーマを設ける。

＜カリキュラム＞

時間	カリキュラム	備考
10:00	開場・受付開始	
10:25	開講式・挨拶	研究部担当理事校
10:30-12:00	講演	教育・学修支援における図書館員の役割 －必要な能力開発を考える－ 講師：井上 真琴氏
12:00-13:30	懇親ランチ	研究部にて用意（無料）
13:30-15:30	グループ討議	指導：米澤 誠氏（東北大学附属図書館）
15:45-16:45	全体討議	高野 真理子氏（IAAL 理事）
16:45-17:00	閉講式	研究部担当理事校

※札幌から空路で3時間26分（6:31 ⇒ 9:57着）

静岡から電車で3時間5分（6:46 ⇒ 9:51着）

東京からなら最短 1 時間 31 分 (8 : 20 ⇒ 9 : 51 着)

<講師>

井上真琴氏 (『図書館に訊け!』の著者。同志社大学学習支援・教育開発センター事務長としてラーニングコモンズ的设计・運営を推進。同志社大学社会学部および図書館司書課程で「学术情報利用教育論」を担当する。

※グループ討議・全体討議の指導は、米澤誠氏 (東北大学附属図書館・IAAL 理事)、高野真理子氏 (IAAL 理事)。

以上

i http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm

ii <http://www.juce.jp/edu-kenkyu/2013-literacy-guideline.pdf>

iii <http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>

教育・学修支援における 図書館員の役割

－実践課題と必要な能力開発を考える－

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井上 真琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp

本日の目標

1. なぜ大学図書館が教育・学修支援を担うのか、その根拠と課題を理解できる。
2. 教育・学修支援に求められる知識・スキルについて、事例を挙げて説明できる。

本日の内容構成

- I. 学修支援の根拠と課題 (15分)
- II. 教育・学修支援に必要な知識・スキル
 - II-1 「人はどう学ぶのか」を知る (30分)
 - II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む (25分)
- III. 学習環境デザインを理解する (20分)

I. 学修支援の根拠と課題

学習成果主義と質保証の意識

*大学リテラシー (©寺崎昌男)

I. 学修支援の根拠と課題

課題1 「習」と「修」, 「正課」と「正課外」

- ▶「学習」支援と「学修」支援
両者は、いったい何が違うのでしょうか？
- ▶大学図書館が提供(展開)する情報リテラシー教育プログラムは、「正課」か「課外」のどちらでしょうか。

I. 学修支援の根拠と課題

ロジスティクスから教育・学修支援へ

図書館は従来、情報源を貸し出したり、配信したり、契約した情報源へのアクセスを保証したり、つねに情報源の流通、ロジスティクス(物流)を重視してきた。

学修支援においては、その視点から脱却し、情報をどう利用すれば、学生の認知・思考が活性化し、学習成果を生むのかを焦点としなければならない。

それには、有力な学び(の手法)であるアクティブ・ラーニングを情報リテラシー教育プログラムに取り込み、実践経験を蓄積して、コンピテンシーを体得させることが目標となる。学習行動を変える情報源の利用方法を提示し、情報を使ってどのように知識を創造するのが課題となる。

I. 学修支援の根拠と課題

◎ 科学技術・学術審議会 学術分科会
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)
— 変革する大学にあって求められる大学図書館像 —

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
(3) 大学図書館に求められる機能・役割
① 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
(2) 大学図書館員に求められる資質・能力等
① 大学図書館職員としての専門性
② 学習支援における専門性
③ 教育への関与における専門性
④ 研究支援における専門性

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
(参照2016-10-20)

I. 学修支援の根拠と課題

情報リテラシーのある人

- ▶ 情報リテラシーを持つ人は、結局、学習の方法を知っている人である。学習の方法を知っているのは、情報がどのように整理されているか、情報をどのように見つけるか、どのように利用すれば他人が自分から学ぶことができるかを知っているからである。また、どんな作業や決断においても必要な情報を見つけることができるため、生涯を通じて学んでいく。
- ▶ Ultimately, information literate people are those who have learned how to learn. They know how to learn because they know how information is organized, how to find information, and how to use information in such a way that others can learn from them. They are people prepared for life-long learning, because they can always find the information needed for any task or decision at hand.

American Library Association Presidential Committee
on Information Literacy, *Final Report* (1989)

I. 学修支援の根拠と課題

《情報を主体的に使いこなす力》

(特に図書館・図書館情報学でいう)情報リテラシーとは、情報の探索・収集に関わるスキルが中心となっている(と思われる)。しかし、情報リテラシーは、入手した文献などを読解・分析し、その成果を表現・伝達していく一連の過程にわたるものであり、単なる機器操作にとどまるものでもない(ととらえたい)。まさに、「情報」を活用して、さまざまな「問題」を解決していくための総合的力である(と捉えたい)。

野末俊比古。「情報リテラシー教育」とは何かを考えるにあたって。情報管理. 2009, vol.52, no.3, p168-171.

I. 学修支援の根拠と課題

焦眉の課題となる事項

- ▶ “人はどう学ぶのかを”を考察する学習理論に基づいた学修支援を行い、プログラムを開発する必要がある。
- ▶ アクティブ・ラーニングの手法を取り込み、実践の知識・スキルを具体的な文脈のなかで省察し理解する。
- ▶ 図書館員＝「情報源スペシャリスト」としての専門性を発揮し、ツール中心のアプローチから批判的思考法・問題解決方法を焦点としたアプローチに転換する。

II. 教育・学修支援の知識・スキル

II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

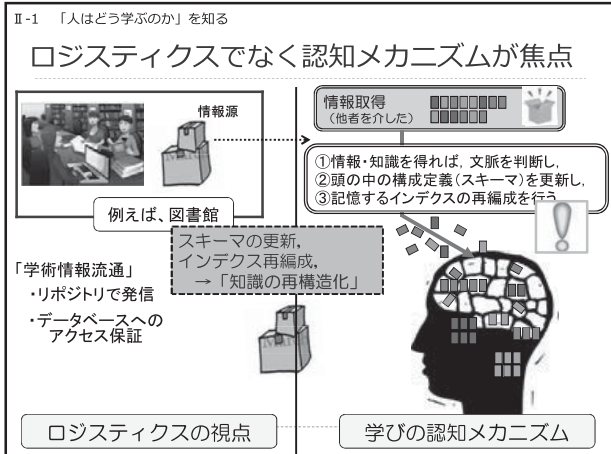
II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

課題2 「学ぶ」とは何か

自分なりに「学ぶ」ことを定義する



Fabulous!!



II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

市川伸一『勉強法の科学』

覚えること、伝えること、分かること

- ▶ [原理や法則等を]分かった人は、簡単に覚えられるし、まず忘れない。ここで大切なことは、一見ばらばらのものに、なんらかの関係を見出せば、覚えやすくなるということである。
- ▶ 物事の間関係が分かれば、わたしたちは実によく覚えることができる。ただし、それが分かるためには、知識が必要なことに注意してほしい。

II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

今井むつみ『学びとは何か』

今井むつみ『学びとは何か』

- ▶ 新たな知識はゼロからは生まれない。すでに知っている知識を様々な組み合わせることで生まれる。創造力の源泉は持っている知識を使って想像することである。(中略)人は、想像力といま持っている知識を組み合わせることによって、無限に新しい知識をつくっていくことができる。
- ▶ 人は持てる知識を総動員して新しい知識の要素を獲得する。スキーマがうまく機能していれば、新しい要素を学習するたびに新しい要素はシステムに関係づけられ、前からある要素も修正されるし、システム全体がアップデートされる。
- ▶ 「生きた知識」は目の前の問題を解決するのに使うことができるだけではない。新たな知識を創造するために使うことができる。

II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

学習理論の理解が必要

- ▶ 欧米の図書館で影響力のある学習理論
 1. 行動主義: 定型行動の正確さ
学習は、新しい行動パターンを自動的になるまで繰り返す受動的プロセスである。
 2. 認知的構成主義: 知識・技能の応用と転移
学習は、学習者が新しく得た情報を、既知の知識やスキーマを調整し、再編成・再構成を行うプロセスである。
 3. 社会的構成主義: 学びの実践と協同
学習は、各学習者が個人的な経験、知識、スキーマに基づき、コミュニティの他者との相互関係を通じて構成される。

II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

課題3 二系統の説明ができるか

- ▶ 教育・学修支援専門職という呼称が、最近よく使われますが、以下の二系統に読めます。

「教育・学修」支援専門職
「教育・学修支援」専門職
それぞれ、どのように異なるでしょうか。

II-1 「人はどう学ぶのか」を知る

課題4 図書館員の専門性は

- ▶ 『人が学ぶということ』に異版はあるのか？
- ▶ あつたら、内容はどこが異なっていたか？
(事前の読解資料の理解度)

情報(源)スペシャリスト

- ・情報(源)の探索・同定・評価ができる。
- ・情報(源)の可用性を展開できる。

II. 教育・学修支援の知識・スキル

II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む (教授法学、インストラクショナルデザイン)

II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

アクティブ・ラーニングが言語化できない①

▶「思考を活性化する」学習形態

- ・実際にやってみて考える。
- ・意見を出し合って考える。
- ・わかりやすく情報をまとめ直す。
- ・応用問題を解く。
- ・振り返る(省察する)。
=活動を介してより深くわかる

形態・呼称: 課題探求型学習, PBL (Project-, Problem-Based Learning), 学生参加型授業その他
理論・手法: アンカード・インストラクション, 相互教授法, ジグソーメソッド, ゴールベースシナリオ, LTD等

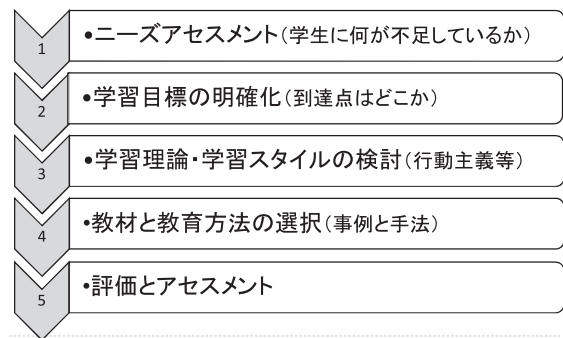
II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

アクティブ・ラーニングが言語化できない②

- ▶ アクティブであるべきなのは、学生の行動 (Behavior) ではなく、認知 (Cognition) であり、学生の「認知的な」姿勢をアクティブにすることが重要 (メールマガジン「Beating」第58号)
- ▶ 学習は、学習者の能動的探索による知識構造体 (スキーマ) の組み替えであり、その過程のコミュニケーション行為により、知識が社会的に構成されることを重視
- ▶ コミュニケーションの文脈デザインと知識再構成過程への関与により学習支援が可能

II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

プログラムを実施する際の順番



II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

全般と最終目標を明確に(雑誌記事)

1. 全般目標:
「逐次刊行物および雑誌(学術雑誌・商業雑誌)の刊行プロセスや性格の違いを読み解くことができる」
2. 個別目標:
「商業雑誌と学術ジャーナルを検索させ(条件)、学生(学習者)は、一般的な雑誌の記述と学術ジャーナルの論文の違いを知り(基準)、課題に適合した記事を特定することができる(パフォーマンス)。

II-2 アクティブ・ラーニングを取り込む

全般と最終目標を明確に(新聞記事)

1. 全般目標:
「新聞(全国紙)の発行プロセスや記事の表現方法・信頼性を理解する」
2. 個別目標:
「新聞記事の表現する“事実”について、他の情報を検証させ(条件)、学生(学習者)は、独特の表現や記述方法を知り(メディアの性格)、利用にあたっての注意点を知ることができる(パフォーマンス)。

全般と最終目標を明確に（期末レポート）

- ▶ 社会問題から1つを選択し、その問題に関する具体的な立場を選択して、図書、雑誌、新聞、インターネット情報等を探索・評価し(条件)、学生(学習者)は、利用した情報源の評価理由や主張の根拠となる事実と記述を挙げて(公正で客観的な認識・態度)、自らの考えを主張する(パフォーマンス)。

評価とアセスメント

- ▶ 学生の学習成果(到達度)の評価
 - 必ず最初の目標に立ち戻って検証する。
- ▶ プログラムの評価
 - 教育方法が有効だったか、学習者が意図したスキルを身に付けたか。
- 《ミニツツペーパー》《コメントシート》
 - ・セッションで学習したことの中で最も重要なことは何か？
 - ・まだ答えが出ていない最も重要な問題は何か？
- 《ルーブリックを活用したパフォーマンス評価》
- 《振り返り報告・発表》

参考となるガイド・指針

- ▶ 高等教育のための情報リテラシー教育(2015年度版)
 1. 課題を認識する
 2. 情報探索を計画する
 3. 情報を入手する
 4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
 5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
 6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する
- ▶ Information Literacy Competency Standards for Higher Education. (ACRL : Association of College and Research Libraries, 2000)

III. 学習環境デザインを理解する

「行為や認知を誘発する資源」としての環境。

よい学習を導くポイント

- ▶ 最もよい学習は、学習者が自身のまだあやふやな段階の思考過程を明示化し、学習過程を通して明示化し続けるときに起きる。
- ▶ 会話や文章によって自分の思考過程を表現し、自分の知識の状態を省察する機会を与えられるときに、よりよく学ぶことができる。
- ▶ 学習科学にもとづいた教室は、省察を促すようにデザインされている、それらの多くは、生徒に自らの思考過程を明示化しやすくする道具を与えることによって、省察を促進している。

R.K.ソーヤー『学習科学ハンドブック』(培風館, 2009)



Ⅲ. 学習環境デザインを理解する

福岡伸一氏の「アフォーダンス」説明

グラスがあれば飲み物を入れるものだとわかる。イスがあれば座ればよい。ノブがあれば回せばよく、取っ手がついていれば引けばよい。平たい金属板が貼ってあれば押せばよいとわかる。

単にモノの側にだけ備わっている特性ではなく、かと言って、私たちの能力だけの問題でもない。モノを見たとき、その形象や動きから行為の可能性が自然に導きだされること。モノとヒトとのあいだに存在するこの相互作用のことをアフォーダンスという。

福岡伸一『芸術と科学のあいだ』(2015)



Ⅲ. 学習環境デザインを理解する

Blended Librarian, Embedded Librarianに学ぶ

▶ Blended Librarian :
図書館スキルをIT技術、授業設計技術、教育工学等と結びつけて大学の教育現場で活躍する図書館員

The Blended Librarian.
<http://crlin.acrl.org/content/65/7/372.full.pdf> (参照 2016-10-10)

▶ Embedded Librarian:
図書館を離れ、利用者が活動している場から、利用者と活動をともにしつつ情報サービスを提供している図書館員

鎌田均, 「エンベディッド・ライブラリアン」: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき、情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを、学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

他にLiaison Librarian, User Experience Librarian



Ⅲ. 学習環境デザインを理解する

2つのアプローチと実践の場

- ▶ スキル志向アプローチ: スキル中心主義
理想的な情報利用に必要な一連のスキルが焦点。図書館関係者、情報管理の専門家の視点から情報リテラシーを捉える。
- ▶ 利用者志向アプローチ: 経験の共有主義
コミュニティに所属する人々が、状況や文脈に応じた効果的な情報利用経験(理解)を蓄積し、成員間で共有することを重視。
多様な情報利用の在り方を認識し、経験することによって、学習成果として情報探索・利用手順のレパートリーを増やすことを目指す。

	スキル志向アプローチ	利用者志向アプローチ
視点の所在	情報管理の専門家	利用者
前提事項	個人の属性	共有経験
学習成果	スキル(属性)の習得	多様な情報探索・利用手順の習得

▶ 瀬戸口誠, 情報リテラシー教育とは何か: そのアプローチと実践について. 情報の科学と技術. 2009, vol.59, no.7, p.316-321.

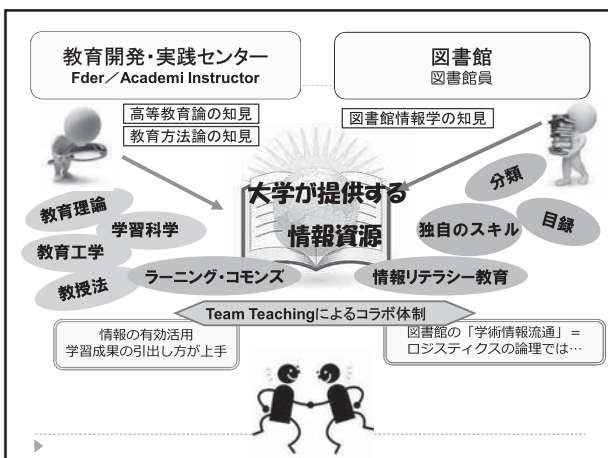


Ⅲ. 学習環境デザインを理解する

課題5 三者の関係を説明する

- ▶ 情報リテラシー教育 (学習理論)
- ▶ アクティブ・ラーニング
- ▶ ラーニング・コモンズ

上記3つのキーワードを使って、その関係を筋道立てて、200文字で説明してください。
(キーワードを使う順番は自由です)



参考文献

学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座(全11回). Beating(メールマガジン). 2005, no.11-2006, no.22.
<http://www.beatiii.jp/beating/index.html> (参照 2015-10-28)
※連載内で紹介されている文献すべて

市川伸一. 勉強法の科学: 心理学から学習を探る. 岩波書店, 2013. xi, 110p.

今井むつみ. 学びとは何か: <探究人>になるために. 岩波書店, 2016. xiv, 230, 7p.

今井むつみ, 野島久雄. 人が学ぶということ: 認知学習論からの視点. 北樹出版, 2003. 247p.

R.K.ソーヤー編. 学習科学ハンドブック. 培風館, 2009. 490p.



所属： _____

氏名： _____

課題1：「学修」か「学習」か？

「学修」支援は、 _____ を意味し、

「学習」支援は _____ を意味する。

「正課」か「正課外」か？

皆さんの提供する情報リテラシー教育プログラムはどちらになるか。

_____ の場合は、 _____

_____ の場合は、 _____

課題2：「学ぶ」とは何か？

自分なりに「学ぶ」ことを定義してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

課題3：「教育・学修」支援専門職と「教育・学習支援」専門職は何が異なるのか？

「教育・学修」支援専門職は、 _____ であり、

「教育・学修支援」専門職は、 _____ である。

課題4：図書館員の専門性とは何か？

.....

.....

.....

.....

.....

課題5：以下の3つのキーワードを使って、その関係を筋道立てて（スキーム化して）、200文字程度で説明してください。（キーワードを使う順番は自由です）

情報リテラシー教育, アクティブ・ラーニング, ラーニング・コモンズ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

グループ討議：「アクティブラーニング」の技法に基づいた学習支援の企画立案

私立大学図書館協会東地区部会地域研修 2016年10月21日 仙台開催

NPO 法人 大学図書館支援機構（高野）

グループ討議・全体討議の到達目標

実際に実施可能な学習支援の企画ができるようになる。企画を立てるプロセスで、共同して何かを実施する際のコミュニケーション能力を身につける。

また、学習支援を企画するにあたって、図書館員が身につけておくべきスキルについて述べるようになる。

全体の流れ

1. はじめに：グループ討議の方法（米澤氏）15分 13:30-13:45
2. インストラクショナル・デザイン：IDの基本とアウトラインの描き方（高野）15分
13:45-14:00
3. グループ討議：ジグソーメソッドによりグループ毎に異なる視点から学習支援を企画する
14:00-15:30
4. 全体討議 15:45-16:45

1. はじめに

- ・井上氏の講演を受け、学修（学習）支援を大学図書館で行うことの意味の確認。
- ・この研修自体をアクティブラーニングの実践とする。グループ討議から成果を持ち帰ってもらう。
- ・グループ討議の方法について。ラウンドロビン、KJ法、一人一人の意見の尊重、等々。

2. インストラクショナル・デザイン

- 2-1. インストラクショナルデザインの基本
- 2-2. 学習成果の5分類
- 2-3. 対象者の特性と動機づけ
- 2-4. アウトラインを描く

【目標設定】【目標に向けて適切な手段は？】【Blended learning 構成主義】【ゴールの確認】

3. グループ討議

ジグソーメソッドにより、グループ毎に与えられた視点で学習（学修）支援の企画を考える。

1 グループは4人とする。これ以上多いと、ほとんど発言しないでもすんでしまうことがあり、これ以下だとアイデアにバリエーションが望めないため。

命題ミッション

「情報リテラシー」「利用者教育」で図書館は誰に何をどのように教えるか。
あわせて、そのためには図書館員はどのような知識とスキルが必要なのか。
(それは、バックヤードのスキルとどのように関係しているか。)

A. 読書支援

読書支援ツール・システムの利用、ビブリオバトル、ポップや展示、指定図書、英語多読コーナー、選書ツアー、ポイント制、SNSの利用などのアイデアとその評価

B. ライティング支援講座

図書館で行うか？誰が行うか？
図書館は何をすべきか？何ができるか？
望ましいライティング支援講座の姿は？

C. 授業・ゼミ支援

教員との連携でできることは何か？
授業・ゼミ支援の発展形は？

D. テーマの発想法と情報収集・資料収集

レファレンスをどう発展させるか？レファレンスの出前は可能か？
図書館でどのような支援ができるか？
誰が、いつ、どのような形で行うか？

E. ピアサポート

院生等のサポートデスク導入について、その利点と問題点
運用方法→図書館員の役割は？

F. 来館型学習支援と非来館型の学習支援

図書館オリエンテーション・DB説明会・ライブラリートツアー・出張ゼミ・レファレンス
ポータルサイト・パスファインダー・eラーニング・LMS・オンラインレファレンス

G. 図書館の学習支援と他部署・他大学との連携

他部署との連携でできることはあるか？
他大学との連携の可能性

4人×7グループ=28人を想定

4人×6グループ=24人になった場合はD.を削除



4. 全体討議

発表時間

6 グループの場合, 1 グループ発表 5 分, 他グループからの示唆 5 分 10 分×6=60 分

- A から順にグループ討議の結果を発表。
- 各テーマは一つの視点なので, 別の視点で討議した考え方をつなぎ合わせるため, 関連する問題点をそれに関するグループに意見を振る。(どのグループに振るかは司会の裁量)

**2016年度私立大学図書館協会東地区部会研究部予算
決算報告
(2016年4月1日～2017年3月31日)**

収入の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	6,050,000	6,050,000	0	2016年度より支出に応じた交付
研究会参加費収入	50,000	9,000	41,000	意見交換会参加費:@1,000円×9名
研修会参加費収入	70,000	0	70,000	
雑収入	1,000	934,788	△ 933,788	研究分科会残金910,683円 / 研修分科会残金24,067円 / 種金利息38円
小計	6,171,000	6,993,788	△ 822,788	
前年度繰越金	0	0	0	
合計	6,171,000	6,993,788	△ 822,788	

支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)	170,000	117,664	52,336	研究講演会の講師謝礼、交通費
研究会開催費	250,000	221,000	29,000	「交流会」(研究分科会参加者の相互交流)の開催
研修会開催費	800,000	0	800,000	隔年開催
地域研修	755,000	700,160	54,840	2016年度より開催:研究部任期2年目に実施。隔年開催予定
オンデマンド研修	901,000	873,892	27,108	2016年度は図書コース作成
運営委員会費	100,000	84,191	15,809	
運営委員会・分科会代表者 合同会議	160,000	64,290	95,710	年2回(5月・11月)
分科会助成金	420,000	410,000	10,000	
内訳				
基本助成	180,000	180,000	0	30,000円×(5研究分科会+1研修分科会)
割増助成会員	240,000	230,000	10,000	5,000円×46名
特別助成	1,300,000	1,043,209	256,791	
内訳				
研究分科会支援金	800,000	543,209	256,791	
研修分科会支援金	500,000	500,000	0	
研修委員会費	100,000	69,458	30,542	
研究部活動費	50,000	0	50,000	研究部活動(運営委員会・研修委員会含)
印刷費	250,000	252,622	△ 2,622	
内訳				
研究部報告書	200,000	252,622	△ 52,622	研究部報告書:500部
研究部用封筒印刷代	50,000	0	50,000	研究分科会PRチラシ等
通信費	20,000	22,296	△ 2,296	
運営事務費	850,000	196,702	653,298	振込手数料、過去の年度報告書29年分PDF化等
小計	6,126,000	4,055,484	2,070,516	
予備費	45,000	0	45,000	
合計	6,171,000	4,055,484	2,115,516	
東地区部会への戻入額	0	2,938,304	△ 2,938,304	
総計	6,171,000	6,993,788	△ 822,788	

2016年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

東地区部会研究部担当理事校

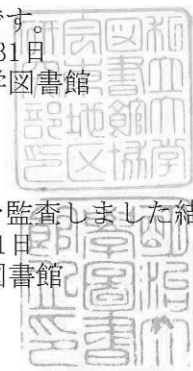
2017年3月31日
桜美林大学図書館

監査報告書

2016年度に係る決算報告書及び付属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

東地区部会監事校

2017年4月1日
明治大学図書館



2017年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画(案)
(2017年4月1日～2018年3月31日)

1. 研究部活動方針

(1) 研究活動 (2) 研修活動 (3) 研究部関連ホームページの安定的運用

2. 活動計画

(1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動を行う。年8回程度開催。

(2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議する。
2017年5月、11月の年2回開催。

(3) 研究講演会及び研究会

1) 「研究講演会」の開催。

2017年6月部会総会・館長会終了後に開催。於：立正大学

2) 「研究報告大会」の開催。

2017年12月開催予定。会場未定

(4) 研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年8回程度開催。

(5) 研修会

研修委員会による研修会。

2017年11月16～17日(木～金)に開催。於：明治大学

(6) 研究分科会

5 研究分科会が、各研究主題に沿って月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

① 分類研究分科会

④ パブリック・サービス研究分科会

② 西洋古版本研究分科会

⑤ レファレンス研究分科会

③ 和漢古典籍研究分科会

休会：企画広報研究分科会(2年目)

(7) 研修分科会(単年度活動)

(8) オンデマンド研修

双方向型のラーニングデザインによるインタラクティブな研修を実施。

2017年度は「図書コース」の開講と「雑誌コース」の製作を予定。

(9) 研究部報告書

2016年度の研究部の活動記録を発行する。2017年6月予定。

以上

2017年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部予算(案)
(2017年4月1日～2018年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	17年度予算(A)	16年度予算(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	4,700,000	6,050,000	△ 1,350,000	2016年度より支出に応じた交付
研究会参加費収入	0	50,000	△ 50,000	2017年度は意見交換会の開催なし
研修会参加費収入	30,000	70,000	△ 40,000	2015年度意見交換会実績:25名 @1,000円×30名
雑収入	1,000	1,000	0	
小計	4,731,000	6,171,000	△ 1,440,000	
前年度繰越金	0	0	0	
合計	4,731,000	6,171,000	△ 1,440,000	

支出の部

科目	17年度予算(A)	16年度予算(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)	80,000	170,000	△ 90,000	研究講演会の講師謝礼、交通費
研究会開催費	200,000	250,000	△ 50,000	「研究分科会研究報告大会」の開催
研修会開催費	800,000	800,000	0	隔年開催
地域研修	0	755,000	△ 755,000	2016年度より開催 研究部任期2年目(2018年度)に実施
オンデマンド研修	930,000	901,000	29,000	システム・ネットワーク費、「図書コース」 運営費、「雑誌コース」制作費
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員会・分科会代表者 合同会議	160,000	160,000	0	年2回(5月・11月)
分科会助成金	420,000	420,000	0	
内訳				
基本助成	180,000	180,000	0	5研究分科会と研修分科会が活動 @30,000円×(6分科会)
割増助成会員	240,000	240,000	0	2017年度会員予定数 @5,000円×48名
特別助成	1,300,000	1,300,000	0	
内訳				
研究分科会支援金	800,000	800,000	0	
研修分科会支援金	500,000	500,000	0	
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	300,000	250,000	50,000	
内訳				
研究部報告書	200,000	200,000	0	500部
研究部用封筒印刷代	100,000	50,000	50,000	研究部1年目のため増額
通信費	20,000	20,000	0	
運営事務費	200,000	850,000	△ 650,000	研究部資料電子化継続(予定)
小計	4,660,000	6,126,000	△ 1,466,000	
予備費	71,000	45,000	26,000	
合計	4,731,000	6,171,000	△ 1,440,000	
東地区部会への戻入額	0	0	0	
総計	4,731,000	6,171,000	△ 1,440,000	

【付録①】

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)

(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)

(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)

(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)

(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)

(2000 年 6 月 9 日 改訂)

(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名

（東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名）

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

付録 I

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第 9 条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第 10 条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第 11 条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第 12 条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第 13 条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和 29 年 4 月 1 日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和 34 年 5 月 8 日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和 35 年 10 月 14 日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和 44 年 2 月 18 日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和 63 年 6 月 28 日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成 8 年 4 月 1 日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は 2001 年 4 月 1 日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は 2004 年 6 月 18 日よりこれを実施する。

【付録②】

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を申請するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

付録 I

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があつた場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。

2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月 25 日までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。

第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。

第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。

第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。

第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。

第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004年4月1日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005年4月1日から施行する。
- 3 本申し合わせは、2015年4月1日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日制定)

(平成 2年4月 1日改正)

(平成 8年3月28日改正)

(2016年12月 9日改正)

第1条 この規則は、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下「研究部」という。）に設置する研修委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 委員会は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、次の活動を行う。

- ① 研修会等に関する情報の収集、提供
- ② 研修会等の企画、実施
- ③ 関連する機関、団体との連絡・協力
- ④ その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は、6名以上8名以内の委員をもって構成し、うち1名もしくは2名は研究部担当理事校（以下「担当理事校」という。）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は、担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はこれを補充するものとし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第6条 委員会に、委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議事を進行する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

- 3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第8条 委員長及び委員は、東地区加盟館から研究部担当理事（以下「担当理事」という。）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

- 2 第6条に定める副委員長は、委員長が指名する委員をもって充てる。

第9条 委員長は、委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、必要に応じて実費を徴収することができる。

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については、研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

- 1 この規則は平成8年4月1日より施行する。
- 2 この改正確則は2017年4月1日より施行する。